

留学先：The University of Findlay

氏名： 近藤 芙実歩

みなさんこんにちは。今回で3回目の報告書となります。報告書を書こうとパソコンに向かうと、前回の報告書から1ヶ月経ったのかとふと時の流れの速さを実感します。10月に入ると、木々一斉に赤・黄・橙に染まり始めました。フィンドレー到着直後から、ここでの紅葉は日本とはまた違って良いと聞いていたのですが、噂の通りものすごくきれいで、キャンパス内を歩くだけで紅葉を楽しめます。さて、今回の報告書では、前回に引き続き授業の紹介をさせていただくと同時に、定期的に行っている2つの活動・日常生活での気づき・その他の課外活動についてまとめてまいります。



● 授業

✓ Phonics/ Foundation of Literacy：週2回・計2時間半・現地学生と

教育学部の学生が受講するこの授業では、英語話者の読解力を伸ばすための様々な指導方法を学びます。英語教員を目指すものとして、日本で英語を教える時のこととリンクさせながら考えられるので、とても興味深いです。また、この授業はほとんどが現地学生です。グループディスカッションでは尋常じゃなく速いネイティブスピーカーの英語を聞き取った上で自分の意見を言うので、うまくいかないことも多いですがとても鍛えられています。

✓ Experiences in Japanese：週1回・1回

この授業では、日本人留学生は日本文化を、アメリカ人留学生はアメリカ文化を、相互に教えあいます。授業は週に1時間ですが、授業外でも週に最低1度はグループで集まって、授業に関わる活動を行います。例えば、先日は日本の典型的な朝食とアメリカのパスタ料理を作ってディナーを楽しみました。

● 定期的な活動

✓ Funday Sunday

毎月1回、日曜日に開催される地域に根付いたファミリーイベントです。毎回Japan Stationというブースでボランティアとして参加します。毎月テーマが決まっています、9月は「野球」というテーマでストラックアウトと野球の折り紙、10月は「日本」テーマで福笑いとポケモンのぬりえを用意するなど、テーマにそって日本文化にまつわるものを用意します。子どもたちに伝わる英語を話すのはとても大変ですが、とにかくみんなが可愛いので、自分自身も楽しみながら毎回取り組むことができています。



✓ Service Ambassador

10月から新しく始めた半期で計6回のボランティア活動で、現地学生とペアになって、介護施設を訪問します。これまで計3回の活動があり、日本から持ってきた紙風船や竹とんぼ、書道などを紹介しては、ペアの学生と施設の利用者さんと楽しみました。この活動は、現地学生との絆を築く機会になるのはもちろん、日ごろキャンパス内で主に生活しているものとして、地域に出ていくきっかけにもなるので、応募して本当によかったです。残り3回の活動も、充実したものにしていきたいです。



● 日常生活

こちらで授業を受けていると、教育へのテクノロジーの浸透が進んでいることを感じます。学生は全員が@findlay.eduのメールアドレスを取得し、先生方からの授業関連のメールはもちろん、ボランティアの機会やその他イベント開催のメールも頻繁に届きます。メールは携帯電話で確認できるのでとても便利です。また、Blackboardというオンラインの学習管理サイトのアカウントも全学生必ず持っています。ここでは、各授業ごとに成績や課題を確認できたり、課題を提出したりすることができるようになっています。このように情報技術をフル活用した教育制度は新鮮で、使い始めたころはその利便性に驚かされました。

● その他課外活動



10月半ば前には4日間の秋休みがあり、その間にグランドキャニオン・ラスベガスに行ってきました。アメリカでしたいことのうちの1つ、日本とはまるで違う雄大な自然を拝めることができよかったです。オハイオにはない砂漠地帯・ネイティブアメリカンが生活する土地は圧巻でした。

授業の一環でヘンリーフォード博物館に行きました。公民権運動がアメリカで盛んだった際に起きたバスボイコット事件でロッザパークスというアクティビストが実際に乗っていたバスの座席に座ってみることが出来ました。



ハロウィンパーティに参加しました。会場だった家は、外側も内側も不気味な雰囲気に飾られていて日ごろ人が住んでいる家だとは信じがたいくらいでした。それほどひとつのイベントに力を注ぐのもアメリカらしさだなと思いました。

10月の報告は以上になります。ご質問等ございましたら、以下のメールアドレスへお気軽に連絡ください。(フィンドレー大学 近藤実歩 : kondof@findlay.edu)